

教育目標「学び合い 高め合い 共に伸びる子」



佐渡市立七浦小学校

学校だより

令和4年1月28日発行
新潟県 佐渡市立
七浦小学校



No. 11

♪ 来られる時 に 来られる方 から さわやか あいさつ うらら ななうら ♪

今回は2月7日に開催！7:40～8:00 玄関前でお待ちしています！

その子の1番光るところに光りを当てる

校長 山口 明美

新しい年を迎え、希望を胸に学校生活をスタートしたにも拘わらず、新型コロナウイルスの感染急増を受け、新潟県も「まん延防止等重点措置」が始まりました。目に見えないウイルスとの闘いは、子どもたちの学校生活にも思わぬところにまで波紋を広げているような気がします。感染防止に努め、一日でも早い収束を願います。

さて、大相撲初場所が終わりました。佐渡市出身、十両2場所目の朝乃若関も先場所に引き続き勝ち越しを決めました。暗いニュースが多い中での朝乃若関の活躍は、佐渡市民として大変嬉しく思います。

朝乃若関の本名は、寺澤 樹（いつき）さんと言います。小学校2年生の時、おじいさんに連れられ佐渡少年相撲教室で相撲を始めました。中学校からは県外の学校で鍛え高砂部屋に入門しました。佐渡からは48年ぶりの関取の誕生です。私が両津方面の小学校に出勤する時、朝の集団登校の列の中に毎日おじいさんに手を引かれて歩いている、黄色い帽子をかぶった元気の良い男の子とすれ違いました。その男の子が寺澤 樹さんでした。家から学校までは結構距離があり、登校中にあり余るエネルギーで道路に飛び出すのを心配されていたのでしょうか。夏の暑い日も冬の吹雪で前が見えないような寒い日もおじいさんと歩いている姿に私は毎朝元気をもらっていました。

不登校児童・生徒を受け入れている神奈川県のカンパニーを運営している理事長がある雑誌で、「その子がほかの子と比べてできないところに光を当てるのではなく、一番光るところに光を当てる」ことを大事にしているという記事を読みました。できないところを指摘し、指導され続けても子どもは元気にならないし、力を発揮することはありません。肯定的なまなざしをもって、その子の光るところを探し伸ばしてあげるのが、支援者や先生の役割ではないかと問うています。自分とは違う別の「物差し」でその子を見るとその子の一番いいところを見つけて伸ばしてくれる機会に巡りあえることがあると言っています。毎日子どもと向き合っていると、つい問題的な行動や困った行動に注目しがちです。その時は、自分の「物差し」を一度見直し、別の「物差し」から見ることを心がけることにしたいものです。

寺澤さん（朝乃若関）もその当時の先生や家族から一番光るところに光を当ててもらったのだと思います。これからの活躍を応援していきたいです。